



野鳥との距離と方向の伝えかた

野鳥観察で多くの人が悩むのが、自分が見ている野鳥がいる場所を人に伝えることでしょう。今回は、そのヒントとなる、野鳥との距離と方向の伝えかたについての考察です。

◎距離と高さ

- 距離 5m＝普通自動車 1 台分強
10m＝バス 1 台分弱または普通自動車 2 台分くらい
20m＝バス 2 台分弱

ただ、野外でとっさに思い出すのは難しいかもしれません。

- 自分の歩幅を測って覚えておくと役立つことがあります。歩幅 65cm の人は、15 歩で約 10m、154 歩で約 100m です。
- 木を山に見立てて「何合目」辺りとする表現もあります。たとえば、20m の木で 18m の高さなら「9 合目」ですが、これは実際の樹高の数値が分からなくても、割と伝わる表現です。
- 「木のてっぺんから何 m 下」という表現も使われます。厳密に言えば離れた木の高さは正確には分からないものの、これについては、その場にいる人の間にある程度の共通感覚があるらしく、意外と伝わるものです。
- その木の真下にいれば高さは「何 m」といえば伝わる可能性もありますが、その木から離れていたり、旭山のように傾斜がある場所では実際の高さは分かりにくいです。

◎方向 手で指し示しても比較的伝わりやすいです。

- 自分の真正面の方向を、時計の文字盤になぞらえ「0 時」とし、「2 時の方向」などという表現もあります。ただ、0 時の方向をお互い確認しないと、角度がずれて伝わらなくなります。
- 「双眼鏡で自分が見ている方向を見て！」というのは、だいたいの範囲を絞るのには使えます。ただこの場合、立ち位置が少しでも違くと見える角度が違ってくるので、注意が必要です。

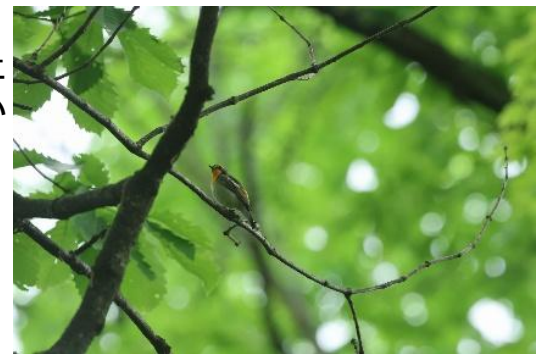
◎林内で目印になるもの

- 「枯れた木や枝」は、樹皮がはげると白っぽくなって目立つため、伝わりやすいです。
- 枝分かれした部分は「Y の字型」とよくいわれます。ただし、「Y の字型」は林内に多くあるため、「右向き」「左向き」「上向き」「横向き」など方向と、「木の色」を補足説明する必要があります。
- 「きつつきがつついた穴」「折れたり倒れたり他の木に引っかかっている木や枝」なども有効です。
- 木が並んでいる場合「左から何本目」というのは使えますし、前後に並んでいる場合、たとえば「あの大きい木の左に伸びているいちばん大きい枝の左奥」という伝え方もあります。
- 「太い木」「細い木」は、人によって感覚が違いますが、「そこにある太い木の右横少し奥の細い木」など、その場の雰囲気を変えて話すと伝わりやすくなります。
- つるが巻き付いている木はよく「もじゃもじゃ」といわれ、よい目印になります。

野鳥は水浴び後の羽づくろいや休息の際に、「もじゃもじゃの中」にしばらくいることがあります。これは、周りを覆われていて外敵に襲われにくく、落ち着く場所であるためと考えられています。

- その他、「ヤドリギがある木」「シラカンバなど目立つ木の近くの木」「ピンクテープが巻かれている木」「ナンバーテープがついている木（番号が見えれば番号も）」「樹名板がある木」など、何でもいから目印になるものを見つけて使うと伝わりやすくなります。

以上のものを組み合わせることで伝えることにはなりますが、結局のところ、悩みを解決する場というよりは、ただ悩みを共有する場となってしまいました。



上の写真 2 枚
「何が」「どこに」を「どう」伝えますか？
上:アオバト 下キビタキ

旭山野鳥メモ 80 ミサゴ

ミサゴ Osprey *Pandion haliaetus* タカ目ミサゴ科

北海道で夏鳥、本州以南で留鳥。海岸岩礁地帯の高い岩崖や大きな木に営巣。大きな河川湖沼があれば内陸部にもいる。水辺から離れた所にはあまり行かない。魚が主食。獲物を見つけると上空でホバリングし狙いを定め垂直に急降下し鋭い足の爪で捕らえる。捕獲時に体が着水しても力強い羽ばたきで飛び上がる。トカゲなど小動物を採餌することもある。



2012年にタカ科からミサゴ科に分離独立した。

かつては準絶滅危惧種であったが、ここ20年で生息環境がいくらか改善されたのか、2026年3月発表の環境省レッドリストでは絶滅危惧種の指定から外れた。確かに以前はやや珍しい種だったが、今では生息に適した環境であればほどこにでもいる印象。札幌市内近郊でも新川河口や屯田遊水地などで見られる。旭山でも上空通過でたまに見られる。

アメリカ軍の垂直離発着航空機V-22は愛称「オスプレイ」(自衛隊も使用)、登山用リュックのブランド「オスプレイ」、2026年NFLスーパーボウルで優勝したシアトル・シーホークスの「Seahawk」はミサゴの別名と、その精悍さや分かりやすい特徴から、愛称やシンボルとしても用いられ、身近な野鳥といえるかも。

2026年6月の野鳥トピックス

- 2026年夏鳥初認日リスト 5月号からの続き () は前年比
- 24 コルリ 5月6日 (5日早) 25 コサメビタキ 5月9日 (1日早)
- 26 アオバト 5月15日 (2日早) 27 オオムシクイ 5月24日 (4日早)
- ※5月号でコルリが抜けており24として追加コサメビタキ番号変更



- シマエナガ：時々見られています。夏羽で細くなっています
- キビタキ：園内各所で囀りがよく聞かれ姿も見られています
- オオルリ：園内でときどき見られ囀りも聞かれています
- コルリ：渡来直後は吊り橋周辺で盛んに囀り、姿が見られる日もありましたが、現在は旭山都市環境林でのみときどき確認できるくらいで、今年も少ないです
- ウグイス：園内数か所で「ホーホケキョ」と聞こえており、数年前より増えた感があります
- センダイムシクイ：鳴き声がよく聞かれています ●ヤブサメ：鳴き声がよく聞かれています
- アオバト：「オーアーオー」声が聞かれ時々姿も見られています。6月は桜の実を食べに来ます
- クマゲラ：時々見られています ●ヤマゲラ (上写真雄)：今年は5月下旬でもまだ見られていました

旭山ミニ生き物図鑑2026年6月



エゾシカ若雄の「ごぼう角」



アオダイショウ



ジムグリ



ジョウカイボン初夏に多い昆虫



ヒメクチバスズメ(蛾)旭山初記録



ハクウンボク街路樹でも見られる



オオハナウド今年もたくさん



オニタビラコひよる長い茎



公式サイト

「アカゲラ通信」 第151号 2026(令和8)年6月6日発行
 (公財)札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所
<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiya/> 〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目
 電話 011-200-0311 (金・土・日・祝日 10時~16時) FAX 011-200-0351